

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなぎます。

幼児教育センター

TAKARA 宝っこだより 16

平成 30 年 (2018 年) 10 月

今年は、台風や大雨による被害も大きく、10月に運動会を実施される幼稚園・保育所(園)では、子どもの体調や天候を気にしながら保育活動を進めておられることと思います。

さて、9月早々のある幼稚園の1場面です。運動会に向けて、それぞれが運動遊具を使って遊んでいます。4歳児のAちゃんは、固定遊具の上に登ろうと、ロープ網から、登り棒からと様々なところから挑戦しています。身体をしならせ、狭い支柱の間もすりとおぬけて到達です。何度も自分なりに挑戦しているAちゃん。入園間もない1学期は、自分の思うとおりに自分の身体を動かせなかったAちゃんですが、2学期になり発達と共に、身体を動かす楽しさを感じているようです。

その様子に刺激され、固定遊具に数人の子どもたちがやってきました。4歳児のBちゃんは、「私は、雲梯！」とやり始めますが、3段ほど進むと、落下。それでも雲梯から離れず、何度もやろうとします。顔をしかめ、手は必死に鉄の棒を握りしめています。私も思わず「頑張れ！あと少し！」と励まします。何とか、渡り切った時、目が合った私とBちゃんは、ハイタッチ。Bちゃんは、被っていたカラー帽子を勢いよくとって、ぐるぐるとカいっばいまわし、「やった！やった！」と体全体で飛び跳ねて喜びを表していました。

その後、出来た嬉しさと自信で、再度挑戦。ところが、続いて2回ほど3段目あたりで、落下。喜びもつかの間。みるみる表情が一変。でも、ここからが大事だと私は思いました。

Bちゃんの心の中は、「もう雲梯をやめたい」でいっぱいではないでしょうか。私は、何も言わず、Bちゃんの様子を見守っていました。暗い表情のBちゃんが、私と目が合った瞬間、もう一度雲梯に挑戦したのです。私も思わず、「頑張れ！」と応援。でも最後までたどりつくことなく、あともう少しというところで落下。でも、Bちゃんの表情は先ほどとはうって変わって晴れ晴れとした表情。

どうしてでしょうか。私たち大人の中にも、今回は、たまたまうまくいったよね、ということとはたくさんあります。努力なのか、運なのかと思うようなことも。Bちゃんは、たまたまといったら失礼ですが、1回は成功しました。けれども続いては、成功できなかった。だけど、努力すればできるようになるだろうということを遊びの中で何となく実感したのではないのでしょうか。

「努力」は強制させられるものではなく、子どもが遊びや生活を通して、「あきらめずにやれば、希望や未来につながる」といったことを実感できれば、なんと素晴らしいことだろうとあらためて思ったひと時でした。

もうすぐやってくる **11日**にはぜひぜひ、ほめほめシャワーをお願いします！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター

TEL: 0797-77-2132

